

講習科目名	【選択】経済と政治の基本問題を考える	実施期日	8月20日（金）
時間数	6時間	講習形態	講義・演習
主な受講対象者	中学校・高等学校の社会科教諭	受入人数	30人
担当教員	齋藤 誠（法学部教授）		
講習の到達目標 （成績評価の観点）	<p>（1）日本の学校における「政治教育」について、他の先進民主主義国との比較のなかで、その特徴と問題点を説明することができる。また、問題点を解決するために、どのような提案が出されているかを説明することができる。（知識・理解）</p> <p>（2）（1）の諸提案について、グループで意見を交換し、グループとしての意見をまとめ、発表することができる。（思考・判断・表現）</p> <p>（3）「政治教育」のあり方への理解関心が講習受講によってどのように変わったかについて説明できる。</p>		
講習の概要	日本の学校での「政治教育」について、①その現状の問題点の理解、②改革提案とそれをめぐる意見の対立の理解、③主な論点に関するグループ討論と合意形成を通じて、問題の全体像を理解し、自分なりの意見をもつ。講習は、グループワークを中心に行う。		
講習計画	<p>◇1時限目（90分）</p> <p>日本の学校教育において「政治教育」はどのように位置づけられているのか、それは先進民主主義国とどこが違うのか、その結果、どんな問題が生じているのか、について、グループごとに、①インターネット検索を用いて調べ、②それを「まとめ用紙A」にまとめて提出し、③その概要を発表する。</p> <p>◇2時限目（90分）</p> <p>日本の「政治教育」を改革するために、どこからどのような改革案が出されているのか、それに対してどのような批判があるのかについて、グループごとに、①インターネット検索を用いて調べ、②それを「まとめ用紙B」にまとめて提出し、③その概要を発表する。</p> <p>◇3時限目（60分）</p> <p>2時限目で調べた改革案とその批判をもとに、グループごとに、①日本の政治教育のあり方をめぐる主な論点を探し出し、②それについて意見交換をしてグループとしての結論を出し、それを「まとめ用紙C」にまとめて提出する。</p> <p>◇4時限目（60分）</p> <p>3時限目で提出した「まとめ用紙C」について、①グループごとに発表し、②それぞれの発表について全体で意見交換を行う。</p> <p>◇5時限目（60分）</p> <p>講習を通じて得られた学習成果を確認・記述する。（筆記試験）</p>		
評価方法	<p>次のア)イ)ウ)3つの方法で評価します。（ ）内は、①測定する到達目標、②評価の観点・基準、③評価全体に占める割合です。</p> <p>ア) 1・2時限で提出された「まとめ用紙A・B」（①到達目標（1）、②グループとしての知識・理解の適切さ、③30%）</p> <p>イ) 3時限目で提出された「まとめ用紙C」と4時限目の発表（①到達目標（2）、</p>		

	<p>②グループとしての思考・判断・表現の適切さ、③30%) ウ) 5時限目の筆記試験 (①到達目標 (3)、②個人としての成果確認の適切さ、③40%)</p>
教材・参考文献	こちらで準備して、当日配布します。
受講者に望むこと	<p>○4人でグループをつくり、グループワークをしながら講習を進めます。積極的に参加・貢献しようという態度をもって受講してください</p> <p>○グループワークではインターネット検索での情報収集が重要な作業となります。当日は、教室で利用できる情報端末を持参してください。</p> <p>○日本及び諸外国の学校における「政治教育」のあり方について、基本的情報を集め、前もってある程度の知識・理解を得ておくと、当日の講習ではスムーズに作業が進みます。</p>
備考	